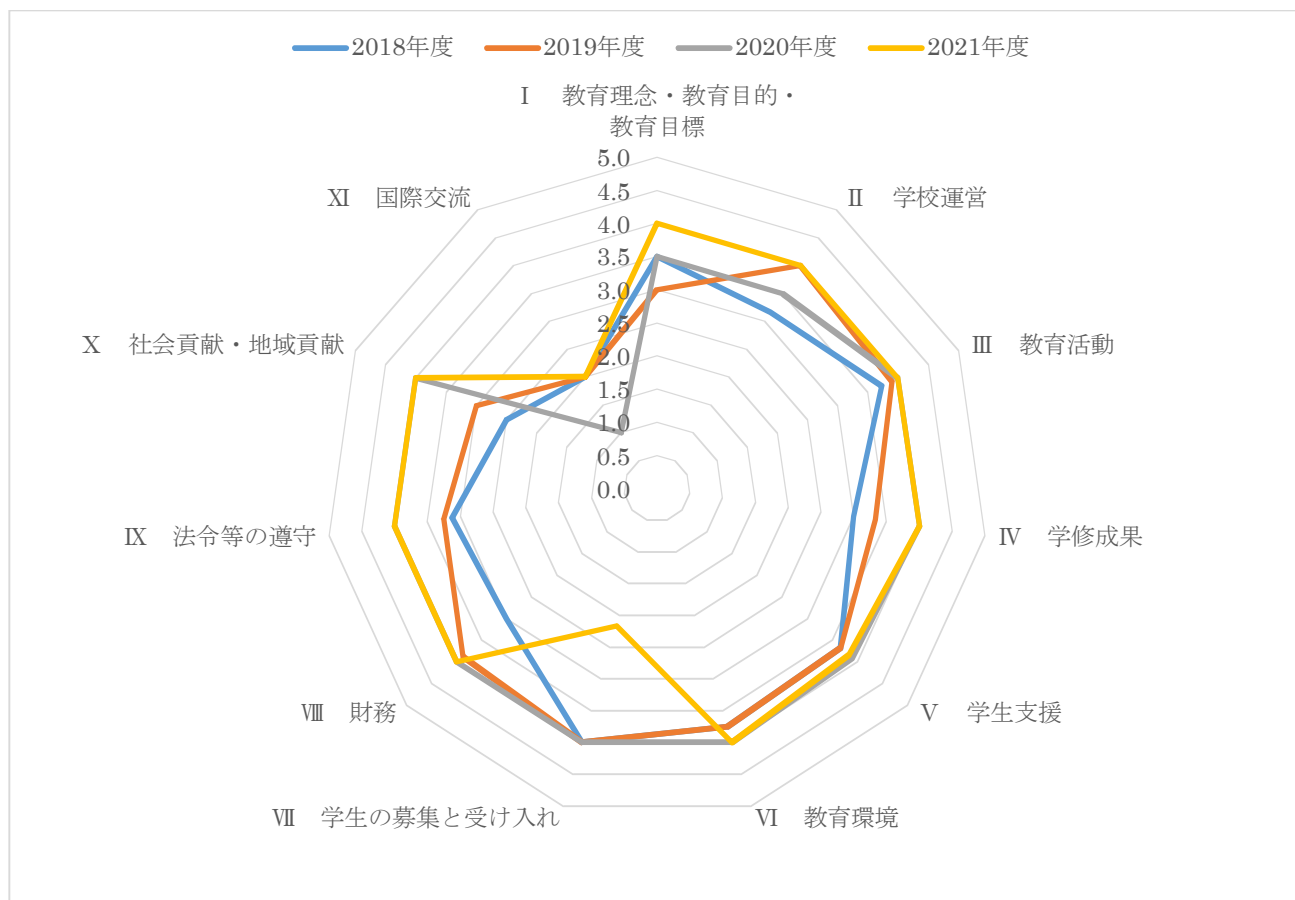


大項目評価結果				
	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
I 教育理念・教育目的・教育目標	3.5	3.0	3.5	4.0
II 学校運営	3.2	4.0	3.5	4.0
III 教育活動	3.7	3.9	4.0	4.0
IV 学修成果	3.0	3.3	4.0	4.0
V 学生支援	3.7	3.7	3.9	3.8
VI 教育環境	3.8	3.8	4.0	4.0
VII 学生の募集と受け入れ	4.0	4.0	4.0	2.2
VIII 財務	3.0	3.9	4.0	4.0
IX 法令等の遵守	3.1	3.3	4.0	4.0
X 社会貢献・地域貢献	2.5	3.0	4.0	4.0
XI 国際交流	2.0	2.0	1.0	2.0
平均	3.2	3.4	3.6	3.6



領域Ⅰ 教育理念 教育目的 教育目標	評価結果 3.5 (2018)⇒ 3.0 (2019)⇒ 3.5 (2020)⇒ 4.0 (2021)
<p>1) 教育理念・教育目的・教育目標は、学生にとって学習の指針となるように具体的に明示しており、学校運営委員・教職員は、教育理念、教育目的、教育目標、年間の教育計画等を共有し連携したと9割以上が評価している。</p> <p>2) 小項目「理念等の学生・保護者・実習施設への周知度の確認」の昨年度は半数が出来ていないという評価であったが、今年度は7割が出来たと評価しており昨年度よりも上昇した。しかし、コロナ禍ということもあり具体的な対策としては十分とは言えないため、今後の課題である。</p> <p>3) すべての教職員が「教育目標を指針として行動できる看護師の養成に取り組んでいる」と評価している。昨年度末から今年度初にかけて、学年別教育目標を改善し、目標達成に向けて取り組んでいることが高い評価に繋がったと考える。</p> <p>4) 「演習や臨地実習の実施にあたっては、関連業界等からの協力を得ている」とすべての教職員が評価している。コロナ禍であるにもかかわらず9割程度臨地での実習を行えたことが、高い評価に繋がったと言える。</p> <p>5) 中項目「社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いている」については、2024年3月に閉校となるため、長期スパンでの将来構想が描けないためやや評価が低かったと考える。</p>	
領域Ⅱ 学校運営	評価結果 3.2 (2018)⇒ 4.0 (2019)⇒ 3.5 (2020)⇒ 4.0 (2021)
<p>1) 千葉中央看護専門学校単年度の運営方針を文書化するなど明確に定め、その運営方針は理念等、教育目標、事業計画をふまえて定めている。「運営方針の教職員への周知度の確認」が出来たと評価したのは8割、「中期計画を定めている」は7割であった。後者については、閉校決定の影響があると考えられる。</p> <p>2) 「学校運営のために組織を整備し、適切に運営している」は殆どの項目で100%出来ているという高い評価である。その中で小項目「教職員の意欲及び資質向上への取り組み」については75%とやや評価が低い。コロナ禍により学会や研修参加の制約が生じていることもあるが、教職員のニーズを踏まえ取り組んでいくことも必要である。</p> <p>3) 「人事・給与に関する制度」に関する「昇任・昇格の基準を規定などで明確化し適切に運用している」「人事考課制度を規定などで明確化し適切に運用している」は昨年度より2割程上昇しているが7割台であり、誠懇会および学校の情報提供不足や運用が円滑でない等が要因であると考えられる。</p> <p>4) 「意思決定システムの整備」については、昨年同様7割台の評価であった。決定事項の周知を含めた意思決定システムの規定等の明文化や組織構成員の意思の反映について、課題を模索していく必要がある。</p> <p>5) 「情報システム化に組み込み、業務の効率化を図っている」はすべての教職員が高く評価している。教職員の情報伝達ツールとしての「LINEWorks」、学生への情報提供・連絡ツールとしての「Classi」、リモート授業での「Microsoft Teams」、データの管理・共有としての「共有フォルダ」を教職員が使いこなせるようになったことが理由の1つであると考えられる。</p>	
領域Ⅲ 教育活動	評価結果 3.7 (2018)⇒ 3.9 (2019)⇒ 4.0 (2020)⇒ 4.0 (2021)
<p>1) 中項目「教育方法・評価等」「臨地実習」「資格・免許取得の指導体制」は、コロナ禍の中、講義が急遽リモートに変更、臨地実習が学内に振替になることも多かったが、高い評価を維持できた。教職員相互に協力姿勢があったこと、IT機器の活用がされていたことによると考える。指導体制においては学年担当制が定着し、低学年からの学生支援の成果が現れ始めている。また、講義のみならず、ガイダンスも各学年担当が精力的にリモートで取り組んだことが成果として表れている。</p> <p>2) 中項目「成績評価・単位認定等」も高評価であった。試験の処理、試験の開示などのマニュアルが整備され軌道に乗っているためと思われる。</p> <p>3) 中項目「教員・教員組織」は他項目と比べ、小項目で80%のものが散見されるが昨年よりは上昇している。教員の研修の機会がコロナの影響で減っていること、研修もリモートが増えていることが影響していると考えられる。授業研究は、コロナ対応や臨地実習と並行して実施できるよう工夫をしているところである。また、教員1人当たりの授業時数や臨地実習の回数等を偏りのないよう配慮し可視化に努めているところであり、閉校まで、資質・要件を備えた教員の確保と資質向上への取り組みが必要となる。</p>	

領域Ⅳ 学修成果	評価結果 3.0 (2018) ➡ 3.3 (2019) ➡ 4.0 (2020) ➡ 4.0 (2021)
<p>1) 中項目「就職率」は毎年、高評価である。就職説明会や就職ガイダンスの内容を充実させた結果と考える。</p> <p>2) 中項目「卒業生の社会的評価」は卒業生の動向の把握は昨年よりわずかに上昇しているが7割台である。卒業生の大半が誠馨会関連施設に就職しているため比較的状况を把握しやすく、1年に1回は調査の実施と報告を行っている。しかし、設置主体関連施設以外に就職した卒業生の動向を把握することができていない為、把握方法の確立が課題になる。</p> <p>3) 中項目「資格・免許の取得率」は高い評価であった。補習講義の実施、ガイダンス、個別指導等を3学年担当教員が中心になってきめ細かく継続して行った。模試の結果も従来と比べて良好であり、今年度の新卒者については国家試験100%合格が期待される。</p>	
領域Ⅴ 学生支援	評価結果 3.7 (2018) ➡ 3.7 (2019) ➡ 3.9 (2020) ➡ 3.8 (2021)
<p>1) 中項目「就職等進路」において、体制の整備や支援活動においては高い評価が得られている。就職・進学委員会を中心に学習成果および就職活動状況をデータ化し、会議等で情報共有し組織的に指導していることが、学生の個別相談や指導につながられている理由と考える。</p> <p>2) 「外部における研修の場」に関する教育体制の整備については評価が低かった。コロナ禍により、研修の機会や方法が変化したことが要因である。しかし、社会人としての身だしなみ講座、履歴書や小論文の書き方等の講座を外部業者に依頼、また就職説明会を学校で受けられる等研修の場の提供はできた。インターンシップ等の教育効果についての評価が低いと受け止めた要因が、教員間の共有の方法や内容にあるのか検討していく。</p> <p>3) 中項目「休学・退学への対応」や「学生相談」「学生生活」「保護者との連携」に関する評価は高かった。学年担任制および専任カウンセラーによって、学生の心理面、健康面、学習面で個別対応し、会議や指導記録等での情報共有を図り学校として対応したことが高い理由と考える。</p> <p>4) 「卒業生への支援体制」の中で、同窓会の組織と活動状況の把握は評価が低かった。コロナ禍においてホームカミングデイの開催ができず、卒業生の活動状況把握は十分得られていない。</p>	
領域Ⅵ 教育環境	評価結果 3.8 (2018) ➡ 3.8 (2019) ➡ 4.0 (2020) ➡ 4.0 (2021)
<p>1) 「施設・設備等」は教職員全員の評価が高い。理由として、要所への手指消毒の設置・広いスペースで食事がとれるような配置などコロナ禍における感染対策が出来たこと、事務職員による施設の点検と修理の計画・実施ができたことが挙げられる。</p> <p>2) 「防災に対する組織体制の整備と運用」は高い評価であった。特に、備品の転倒・飛び出し防止のため、チェーンを張るなどの対策を講じたことは評価できる取り組みであった。</p> <p>3) 「授業中の事故対応マニュアルの作成と運用」が出来たと評価したのは76%であり改善の余地がある。当校のハード面におけるセキュリティ対策は十分であるが、不審者が入り込む可能性はある。また予期せぬ事故（喧嘩、自傷、他傷など）については、現在は個々の教職員の判断に委ねられている部分も多い。実習時のフローチャートなどはあるが、学内版のマニュアル作成が今後の課題である。</p> <p>4) 「海外研修時等の安全管理体制の整備」が出来たと評価したのは64%であった。コロナ禍であり、外部での活動自体実施できなかったため、低めの評価になったと考える。</p> <p>5) 防犯体制は整備されており、盗難・暴力等の校内のトラブルは発生していない。</p>	
領域Ⅶ 学生の募集と受け入れ	評価結果 4.0 (2018) ➡ 4.0 (2019) ➡ 4.0 (2020) ➡ 2.2 (2021)
<p>1) 2024年3月の閉校が決まり、12期生以降の学生募集は停止となっている。募集停止に伴い、2021年度の個別見学やオープンキャンパス等の実施を中止した。</p>	

領域Ⅷ 財務	評価結果 3.0 (2018) ➡ 3.9 (2019) ➡ 4.0 (2020) ➡ 4.0 (2021)
<p>1) 学生数の増減等から収入の変化を把握し、教育目標に沿った予算化および運用がされている。予算と血算に乖離が生じておらず、適正な管理がされている。</p> <p>2) 2020年1月から誠馨会関連病院に実習経費を支払うことになり、支出について教員の意識が高まっている。教員が学生の出席状況を適正に速やかに事務職に報告できるよう、工夫され定着している。</p>	
領域Ⅸ 法令等の遵守	評価結果 3.1 (2018) ➡ 3.3 (2019) ➡ 4.0 (2020) ➡ 4.0 (2021)
<p>1) 中項目「個人情報保護」については高評価である。臨地実習など日常的に学生への指導の機会が多いことが反映されていると思われる。</p> <p>2) 中項目「学校評価」では小項目「学校関係者評価の実施」「(学校関係者評価・自己評価の) 評価結果のホームページでの公開」の評価が低い。コロナ禍の中、学校関係者評価委員会の開催が思うように開催できなかったこと、ホームページでの公開だけでは周知に限界があると考ええる。</p> <p>3) コロナ禍の影響もあり、今年度は教職員、学生に対してハラスメントの研修は実施できていない。情報提供や掲示物など、研修会の開催以外の方法も検討していく必要がある。</p>	
領域Ⅹ 社会貢献・地域貢献	評価結果 2.5 (2018) ➡ 3.0 (2019) ➡ 4.0 (2020) ➡ 4.0 (2021)
<p>1) 誠馨会グループの研修や会議、就職試験実施時、看護協会等看護関連団体の研修会場として学校施設・設備を貸出しており、地域への貢献ができた。</p> <p>2) 「社会貢献・地域貢献」については概ね良い評価で、昨年度の評価より高くなっている。2年生の「地域を知り看護を深める活動」において、エコキャップやアルミ缶の回収、献血、地域の清掃をとおして、SDGsを踏まえた活動ができたことが評価に繋がったと考える。</p> <p>3) 「ボランティア活動」についても高い評価であり、昨年度の評価より高くなっている。学生自治会を中心に、日本赤十字社およびユニセフへの募金を行った。閉校に向け、学生たちが今できることを検討して実行できたことが評価に繋がったと考える。</p>	
領域Ⅺ 国際交流	評価結果 2.0 (2018) ➡ 2.0 (2019) ➡ 1.0 (2020) ➡ 2.0 (2021)
<p>1) 授業科目である外国語や国際・災害看護、学校祭でのボランティア活動を通し、国際的視野をもち学習することは行えているが、正規カリキュラムを優先させたため活動に至らなかった。2024年3月の閉校も決定し、コロナ禍の状況が続いているため、国際交流に関わる活動は中止している。</p>	